

### 上下水道の遠方監視装置を開発

### 居ながら各施設の運転状況把握

小松電機産業

上下水道の計装装置としては東芝、三菱、横河電機など大手メーカーが主に手掛けている。しかし、大半は大規模な上水施設や下水処理場向け。水線が散在するなど規模の小さい地方自治体の上下水道計装装置としては、性能が過剰だったり、コストがかかりすぎるなど不向き。「大手の装置を排気量三千ccの大型エンジンで積んだ高級車に例えれば、われわれのシステムは小回りのきく軽自動車。小規模の上下水道には最適」と小松社長は語る。

このシステムは、下水道の遠方監視装置としても利用でき、小松電機では、既に島根県八束町と滋賀県琵琶町の二町で設置工事を始めている。地方自治体の上下水道は各町村により規模がさまざま、大手計装メーカーが量産システムをとりにくい分野。小回りのきく中小企業ならではのメリットを生かし、設置後のメンテナンスも含めて近く全国展開に乗り出す。設置費は大手と比べて割安。施設によっては大手の半分の費用で設置できるという。ヒット中のシートシャッターに次ぐ成長分野に育て上げる考え。

### シートシャッターの市場拡大へ台湾に総代理店を開設

また、小松電機産業は、シートシャッターの海外での売り込みを図るため、台湾に総代理店を設置、台湾での市場開拓に乗り出した。台湾は日本以上の好景気が続いているのに加え、日中の温度が三〇度を超える日が多く、工場の冷房が必要なため、シートシャッターの需要は相当あるものと見込まれている。

シートシャッターは小松電機産業が六十年に開発したもので、超音波センサーで接近する車両などを検知し、ビニール製のシャッターが自動開閉する仕組み。高速で自動開閉できるため、工場や倉庫で利用されヒット商品になっている。特に、昨年から国内景気が向上し、企業の設備投資が活発化して以来、人材確保を図る上からも、工場環境整備に取り組み企業が増えてきた。工場内を冷暖房するためにシートシャッターを導入する企業が増えてきている。

### 松江市への実用化第1号が稼働



小松電機産業が開発し、松江市に設置した簡易水道施設遠方監視装置の中央監視盤。各施設のデータがデジタル表示される。

ベンチャー型企業の小松電機産業(島根県八雲村、小松昭夫社長)は上下水道の遠方監視装置を開発した。この装置は水源、処理場の水量や水質、ポンプなどの運転状態のデータを各施設に設置した検出器から電話回線を使って中央監視盤に伝送、これら水道施設の運転状況を居ながらにして把握できるもの。大手メーカーの装置と比べて小回りがきき、設置費も割安。このほど実用化の第一号として、松江市の簡易水道遠方監視装置として稼働を始めた。同社はシートシャッターの製造で急成長しているが、シートシャッターに次ぐオリジナル商品として上下水道遠方監視装置を近く全国展開に乗り出す考え。また、シートシャッターを海外へ売り込むため、台湾にこのほど総代理店を開設した。整備の遅れている地方自治体の上下水道監視システムと、シートシャッターの海外展開をステップに企業戦略を高める。

松江市には八つの簡易水道施設があり、各施設の水源の規模が小さいため北山山系などに二十六もの水源が点在している。水源のほかに、浄水場やポンプ場などを加えると七十七施設にも及ぶ。市では毎日、三人の職員が各施設を巡回し、市民への安定した給水に努めていた。しかし、異常時の発見が遅れたり、夜間に断水が起きたりすると、復旧に二日間近くかかるケースもあった。遠方監視装置の導入によって、全施設の運

総代理店になったのは台北市の倉庫設備設計・施工業、現代倉庫設備有限公司。台湾最大の製紙メーカー、永豊造紙紙股份有限公司が小松電機のシートシャッター「門番」を八セット導入し、好評なことから総代理店契約を結んだ。既にAT&T(米電話電信会社)の交換機工場にセッ

ト納入したのをはじめ、台湾用のカタログも作成し、売り込みに力を入れている。